

活動分野	森に親しむ講座		
タイトル	佐倉城址と周辺の巨樹・古木を巡る		
実施日時	平成30年5月9日（水）9時30分～12時30分		
実施場所	京成佐倉駅～甚大寺～麻賀多神社～佐倉城址公園		
受講者	11名	F I C会員	13名

活動の内容

甚大寺は、延享3年（1746）に堀田家が山形からの転封に伴い現在地に移された。シダレザクラ、イロハモミジ、コウヤマキ、カリン、ナギ、イヌマキ、サワラ、タイサンボク等の古木を間近に見ることができた。とりわけナギの大きさには皆感激しきりであった。



甚大寺のナギ

無電柱化による、空が高く視界の開けた新町通りを進み、印旛郡役所跡のイヌマキの巨樹を見た後、佐倉市立美術館に休憩のため立ち寄る。受講者の中にかつてここでガイドをしていた方がいて、建物の歴史や展示されていた山車を飾る武者人形等の説明を興味深く聞くことができた。



印旛郡役所跡のイヌマキ

麻賀多神社では樹齢800年のイチョウを、また明治40年に植樹されたというトチノキを佐倉幼稚園園庭にて観察できた。

雨のため、佐倉城址は平坦部だけを歩くコースに変更した。センダンが他の植物同様に例年よりも早く花開いていた。昨日からの風雨で落ちていて花を拾い、その爽やかな香りを味わってもらおうと回してみたが、首をかしげる方もいた。雨で洗い流されてしまったのだろうか。盛り時には木の下に近寄っただけで香りを感じるものだったが…。



クマノミズキの同定

ヤマグワの大木やクマノミズキ、カナメモチを観察しながら本丸跡の夫婦モッコクへ。庭木の女王といわれ、今でも庭造りには欠かせない木である。「江戸時代からね～」と呟き、しばし見入ってしまう。

ヒノキ、サワラ、アスナロの3種がすぐ傍で見られるところがあり、葉の作りを間近で比較・観察することができた。



ヒノキ、サワラ、アスナロ3種の同定

12時過ぎに歴博の無料休憩所に到着。雨天のため午前中で終了となった。